

『タイガの森フォーラム』発足記念シンポジウム

## タイガって何だ？

～知ろう まもろう 水と命、生物多様性の生まれるところ～

日時：2009年12月2日（水）18:30～20:30

場所：東京ウィメンズプラザ ホール

プログラム：（敬称略）

18:35～ ごあいさつ（市田則孝／バードライフ・アジア会長）

18:40～ 写真で見る生命の森・タイガ（伊藤健次／写真家）

19:05～ 森の民・ウデへの過去・現在・未来  
（ロディオン・スリャンジガ／ロシア北方先住民族支援センター代表）

20:00～ 知ろう まもろう タイガの森～『タイガの森フォーラム』発足  
（野口栄一郎／『タイガの森フォーラム』運営委員、国際環境 NGO FoE Japan）



日本海を挟んだお隣にあるロシア極東には、「タイガ」と呼ばれる森が広がっています。「北にある氷に閉ざされた場所」というイメージの強いロシアですが、実はアムール川やシマフクロウが、広葉樹と針葉樹が混じる森に暮らす、生きもののにぎわい溢れるところです。

中でもオホーツク海に注ぐアムール川（黒竜江）の支流が流れる、シホテーアリニ山脈のピキン川流域は、1990年代から日本をはじめとする周辺国への木材輸出のために開発の脅威に何度もさらされながら、ウデヘやナナイなどの少数民族の人々が森や川の恵みを活用する暮らしを守ってきました。

タイガやピキン川を守ろうと現地の村人やNGOなどの動きに応える形で、日本から応援しようと今回立ち上げるのが「タイガの森フォーラム」です。タイガの素晴らしさ、豊かさ、そしてそこに暮らすウデヘなど先住民族の思いに耳を傾けることは、日本に暮らす私たちにとって大きな意味があるのではないのでしょうか。

主催：タイガの森フォーラム設立準備委員会、国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム

協力：株式会社リコー、パタゴニア日本支社

助成：三井物産環境基金

問い合わせ：『タイガの森フォーラム』 <http://taigaforum.jp> [info@taigaforum.jp](mailto:info@taigaforum.jp)

地球・人間環境フォーラム（担当：坂本）TEL：03-3813-9735 / [gef@gef.or.jp](mailto:gef@gef.or.jp)

国際環境 NGO FoE Japan（担当：野口）TEL: 03-6907-7217 / [Taiga@foejapan.org](mailto:Taiga@foejapan.org)

## スピーカーのご紹介

### 伊藤健次(いとう・けんじ)

1968 年生まれ。北海道大学卒業。北海道の山野を広く歩き、野生の生命力や土地の記憶をテーマに撮影を続ける。『家庭画報』(世界文化社)で連載中のグラフ「トワトワ 星と原野の自然へ」の取材で 2006 年 9 月、ロシア沿海地方を探訪し、「ピキン川の夜明け」を掲載。主な著書に「山わたる風」(柏艚舎)「日高連峰」(北海道の山)(以上、山と溪谷社)、写真絵本「ひぐまが語ってくれたこと」(福音館書店)など。ロシア北極圏やカムチャツカ、千島列島など辺境への旅も。2009 年より発足呼びかけ人の一人として「タイガの森フォーラム」に参加。北海道岩見沢市栗沢町在住。趣味は犬の散歩。

### ロディオ・スリヤンジガ(Rodion Sulyandziga)

1966 年ロシア沿海地方ピキン川のほとりのクラスニヤール村で、ウデヘ人の父とナナイ人の母のあいだに生まれる。ハバロフスクで教育大学を卒業後、1993 年から 1997 年まで郷里クラスニヤール村で学校長を務める。その後ロシア沿海地方行政のコンサルタント(先住民族行政に関する)を経て NGO/NPO「北方先住民族支援センター」代表に就任しシベリア・極東各地で先住民族の活動や社会進出を支援している。同センターで勤務・活動する傍ら各地の先住民族の現状を論文にまとめ博士号取得。モスクワ市在住。郷里の村に住むことが夢。

### 野口 栄一郎(のぐち・えいいちろう)

1971 年生まれ。早稲田大学卒業。1995 年から国際環境 NGO FoE Japan に加わり野生動物の生息環境に恵まれたロシア極東地域の調査プロジェクトに参加。2004 年よりピキン川森林地帯で「リコー・FoE Japan 北限のトラ生息域タイガ保全プロジェクト」担当し、研究者・先住民・環境 NGO・企業とともにタイガ林の保護活動やツーリズムに取り組む。2009 年から「タイガの森フォーラム」運営委員。著書「タイガ」(FoE Japan)。好きな食べ物はアカシカの肉。東京在住。



関連イベント 連続セミナー「人々の生物多様性」第 4 回  
「極東ロシアのタイガの森から～日本とつながる生物多様性」

[http://www.gef.or.jp/activity/forest/biodiv/seminar2009\\_4.html](http://www.gef.or.jp/activity/forest/biodiv/seminar2009_4.html)

日時：12 月 4 日(金) 14:00-16:30

場所：環境パートナーシップオフィス (EP0) (定員：70 名)

参加費：1,000 円(主催団体の会員およびサポーター、協力団体のスタッフおよび会員は無料)

事前登録必要

プログラム：

- ウデヘの人々の暮らしと日本(ロディオ・スリヤンジガ/ロシア北方先住民族支援センター代表)
- 日本企業が海外の生態系保全に取り組む理由(岸 和幸/リコー社会環境本部環境コミュニケーション推進室スペシャリスト)
- 『タイガの森フォーラム』で生物多様性保全に貢献(野口栄一郎/国際環境 NGO FoE Japan)

## タイガ、ビキン川に関するキーワード

作成:タイガの森フォーラム  
2009年12月現在

タイガやビキン川について知っていただくためのキーワードなどをまとめました。さらに詳しくタイガやビキン川についてお知りになりたい方は12月下旬に公開予定の「タイガの森ブログ」(<http://taigaforum.jp>)をご覧ください。

### タイガ／タイガ林／タイガの森とは？

英語の綴りは Taiga。ロシアのキリル文字では Т А Й Г А。元々は「静かな森」を意味するシベリア先住民の言葉だったという説など、語源は諸説あるが、現在はロシア語の単語となっていて針葉樹主体の寒帯性・亜寒帯性の天然林をこう呼ぶ。ロシア沿海地方には針葉樹と広葉樹の混交するタイガがあり、こうしたタイガは「ウスリータイガ」(Ussuri Taiga)と呼ばれる。

### タイガの森と日本のつながり

旧ソ連／ロシアのシベリア地域や極東地域のタイガ林で伐採された木材が19世紀から日本に輸出されている。量が多いのはカラマツやエゾマツ、アカマツなどの針葉樹材で、住宅部材に加工されて一般的な建築に用いられている。硬質広葉樹のナラやタモは家具材として加工され、単価がより高い。

こうした木材消費・木材貿易でのつながりの他、近年の研究でロシアのタイガ林と湿地の働きがオホーツク海に大量の鉄分を供給して北太平洋の生態系や水産資源に大きく貢献している可能性が指摘され始めており「オホーツク海の巨大魚付き林」としてのロシアタイガの役割の解明が待たれている。

### ビキン川流域 (Bikin river basin)、ビキン川森林地帯とは？

ロシア沿海地方のシホテ-アリニ山脈に流れを発するビキン川(全長 580km)は北緯 46 度付近を西へ流れてウスリー川へ注いでいる(ウスリー川はアムール川へ流れ込み、アムール川はオホーツク海へ流れる)。ビキン川流域は類稀な森林地帯となっておりその自然のスケールや価値はカナダのグロス・モーン国立公園(面積 1,805km<sup>2</sup>。オオヤマネコが生息。1987 年から世界自然遺産)やアメリカのオリンピック国立公園(面積 3,734km<sup>2</sup>。ピューマが生息。1981 年から世界自然遺産)に匹敵すると言われる。

ビキン川流域は寒暖の幅が大きく、冬の気温がマイナス 40 度前後まで下がる一方、夏の気温は 30 度を越すこともめずらしくない。上流域の森林は針葉樹主体(カラマツやエゾマツ)のタイガ林で、野生動物はヘラジカやオオカミが生息しており、地方政府から鳥獣保護区(面積 7,464km<sup>2</sup>)の指定を受けている。中流域の森林は針葉樹(チョウセンゴヨウやエゾマツ)と落葉広葉樹(クルミやナラ)の混交する「ウスリータイガ」とよばれるタイガ林で、野生動物はアカシカ、イノシシ、アムールトラ、オオヤマネコその他、ユーラシアカワウソやシマフクロウが生息しており、地方政府から先住民の「伝統的自然利用テリトリー」(7,464km<sup>2</sup>)の指定を受けている。下流域は平野・湿地が多く森林は少ない。



## ロシアの法律では森林／タイガ林の所有者は誰か？利用の権利はどうなっているか？

現在のロシア憲法においても土地や資源は国のものとされていて、森林も例外ではない。企業や個人は国や地方からライセンスを得て、森林の利用・開発や狩猟を行う。

## 「森の人ウデヘ」のルーツとは？

12 世紀、武技に優れ中国北部を支配した女真族<sup>じょしんぞく</sup>と呼ばれる人々が王朝<sup>きんおうちょう</sup>（金王朝）を立て繁栄。この王朝はチンギス・ハーンの率いる元（モンゴル）と熾烈な戦いを繰り広げ疲弊し 13 世紀に滅亡。15 世紀、明の歴史書に「森の人 ウディゲ」とよばれる人々が現れる。彼らが女真族の一派で、今日のウデへの先祖である可能性が高い。「ウディゲ」の人々は狩猟の技に秀でておりタイガ林で獲った黒貂<sup>くろてん</sup>の毛皮を明・清のシルクと交換した。この人々がタイガ林の豊かなビキン川流域を発見して移り住み、今日のウデへにつながる暮らしや狩猟文化が育まれていったと考えられている。19 世紀、ビキン川流域をはじめウデへの住むシホテ-アリン山脈一帯がロシア領となった。20 世紀、ウデへの人々はソ連の国営狩猟組合へ山菜や毛皮を売って生活した。現在のウデへの人口は 2000 人未満で、大部分がロシア極東のハバロフスク地方と沿海地方に暮らしている（ロシアの人口は約 1 億 4,000 万人）。

## 1992 年、ビキン川流域のタイガ林へ迫った危機、そしてウデへの人びとの採った行動

1992 年、日本や韓国への木材輸出を目的としてロシア・韓国の合弁企業スヴェトラヤ社の計画した森林伐採計画にビキン川上流のタイガ林が含まれていた。伐採は日本海側のタイガ林から開始され、山脈を越えてビキン川の水源地へ迫った。脅威を感じたビキン川のウデへの人々は有志を募って現場に座り込み、計画に抗議した。計画推進派の知事とウデへの味方についての地方議会が激突。同年秋、知事と地方議会の訴訟を受けたロシア最高裁が伐採計画縮小を命じ、ビキン川流域のタイガ林は伐採計画から守られた。しかしその後も数年おきに新たな伐採企業による開発構想が浮上し、そのつどウデへの人々は問題を訴える手紙に村で署名を集めて大統領・首相・国会・知事・地方議会へ送り、環境 NGO などと連携して世論に訴えることでかろうじてビキン川流域のタイガ林を伐採から守ってきた。

## ビキン川流域、世界遺産登録「保留中」の経緯と、再申請・再審査のための条件とは？

ロシア政府は過去に一度 ビキン川上～中流域(1 万 1,500km<sup>2</sup>=115 万ヘクタール=東京首都圏エリアと同等)の世界遺産登録をユネスコに申請している。申請を受け調査・審査を行ったユネスコと IUCN(国際自然保護連合)はビキン川流域の価値については、絶滅危惧種アムールトラの生息などにより十分世界遺産登録に値すると評価しつつも、現状ではロシア政府によるマネジメント体制が不十分であるとの理由で登録を「保留」した。ユネスコ/IUCN はロシア政府に地元先住民(ウデへの人々)の「全面的参加」を得て効果的なマネジメント体制を作り上げること、その上で再び申請を行うことを勧告した(2001 年の第 25 回世界遺産委員会に於いて)。

なお、この時併せて申請されたシホテ-アリン国立自然保護区(アムールトラが生息)は「中央シホテ-アリン」という名称で自然遺産リストへ登録された。今後 ビキン川流域が遺産登録される場合はこの世界自然遺産「中央シホテ-アリン」の「拡大再登録」という形が採られる。

タイガの森フォーラムとは taigaforum.jp



地球環境・森林・生物多様性・先住民・日本とのつながり等の観点からロシア極東の森林「タイガ」の危機に気づき始めた環境 NGO と企業が、「知ろう、まもろう タイガの森、」や「タイガって何だ？」を合言葉に共同で発足させ、皆さんに是非ご参加・ご協力をいただきたいフォーラムです。

『タイガの森フォーラム』は、ロシア沿海地方の森林地帯を将来に残すため、タイガの生きもの達と先住民など現地の人々がタイガの森と生物多様性の利用者／守り手として生きていくことを隣人として応援する活動として以下を展開します。

- ①ピキン川流域、タイガの森に関する普及啓発活動（セミナーやツアーを実施）
- ②ウデハなど現地の人々のレンジャー活動、ツーリズムの取り組み、民芸品や非木材林産物等のフェアトレードなどを応援
- ③ピキン川上～中流域の保護・世界遺産登録を目標にロシア政府へ働きかける（先住民など現地住民や NGO との連携）

タイガの森フォーラムは、よびかけ人の皆さんにお力添えいただきながら、国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム、株式会社リコー、パタゴニア日本支社の 4 者が中核となり活動を進めていきます。

#### <よびかけ人（2009年12月2日現在 15名）>

足立 直樹／レスポンスアビリティ代表取締役  
あん・まくどなど／国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長  
市田 則孝／バードライフ・アジア会長  
伊藤 健次／写真家  
帰山 雅秀／北海道大学大学院水産科学研究院教授  
柿澤 宏昭／北海道大学農学研究院教授  
C・W ニコル／作家、C.W.ニコル アファンの森財団理事長  
谷口 正次／資源・環境戦略設計事務所代表、資源・環境ジャーナリスト  
谷 達雄／株式会社リコー理事、技師長、社会環境本部本部長  
津曲 敏郎／北海道大学大学院文学研究科教授  
寺島 一男／大雪と石狩の自然を守る会代表  
中静 透／東北大学大学院生命科学研究所教授・東北大学生態適応グローバル COE 拠点リーダー  
平野 喬／地球・人間環境フォーラム専務理事  
三橋 規宏／千葉商科大学政策情報学部教授  
ランダル・ヘルテン／国際環境 NGO FoE Japan 代表理事

#### <活動計画>

2009年12月 発足シンポジウム「タイガって何だ?」、連続セミナー「人々の生物多様性」  
2009年12月中旬 エコプロダクツ 2009 出展  
2009年12月下旬 タイガの森ブログスタート  
2010年上半期 タイガの森とピキン川流域の世界遺産登録をテーマに国内でネットワーキング。タイガ林の先住民と連携してロシア政府へピキン川流域の保護を要望する公開メッセージを送る  
2010年夏～秋 現地活動／タイガの森ツアー  
2010年10月 COP10 にあわせセミナー等を開催し、ピキン川流域の保護をロシアや世界へ働きかける